

# 文-76

# Vてもらいます

N1	は/が	N2	に	Vて	もらいます
----	-----	----	---	----	-------

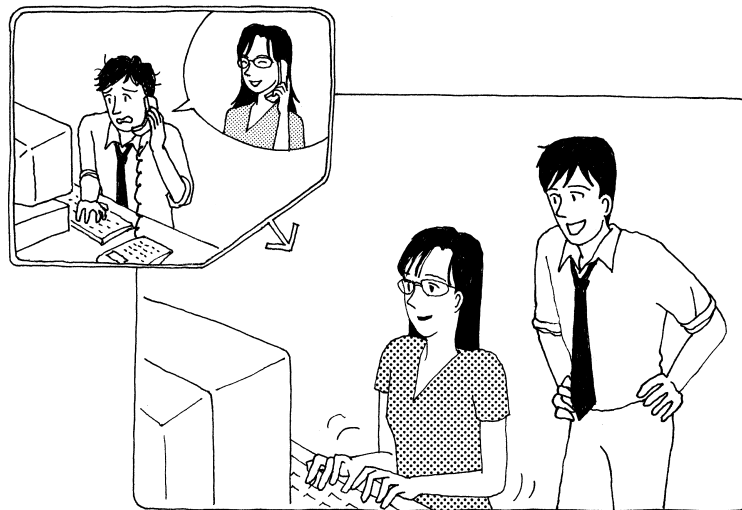
N1: Vの行為の受け手

N2: Vの動作主

## 基 本

### 例 文

- ① 昨日、わたしは、中田さんに年賀状の書き方を教えてもらいました。
- ② 山本さんに日本の写真を見せてもらいました。
- ③ 雨が降っているので、山田さんに車で送ってもらいましょう。
- ④ 明日は忙しくなりそうなので、中田さんにも手伝ってもらうことにしました。
- ⑤ コンピュータが動かなくなったので、中山さんに直してもらいました。



例文 ⑤

- ⑥ A: 「 × 」はどんな食べ物かわかりましたか。  
 B: 田中さんに聞いて、説明してもらったんですが、よくわかりませんでした。
- ⑦ 山中さんに日本から送ってもらったTOKIOのポスターは、わたしの宝ものです。

- A. N1の要望に応じて、N2がVの行為、動作をすることを表す。(例文①～⑦)
- B. N2は話し手にならない。
- C. N1が話し手、または話し手を含む人たちの場合は、「N1は/が」は省略されることがある。  
(例文②～⑦)

## 先生へ

Vは意志動詞。(p.278 参照)

「Vてもらいますか」は、だれかにVの行為を依頼するかどうかたずねるときに使う。

例 A: だれかに手伝ってもらいますか。

B: そうですね。中田さんにお願ひしましょう。

Vが「教える、貸す、送る」などの物や知識が移動することを表す動詞の場合、「に」が「から」になることがあるが、学習者が混乱するのでここでは「から」を扱わないほうがよい。

例 田中さんから本を貸してもらいました。

話し手の利益となる行為について述べる時、「Vてもらいます」を使わず、客観的な事実を述べる「Vます」を使ってしまふ誤用が多い。「Vます」では、行為をした人に対して失礼になることがあるので、注意させること。

例 中田さんがわたしの宿題を手伝いました。(客観的な事実)

中田さんに宿題を手伝ってもらいました。(感謝の気持ちが含まれる)

「Vてもらいます」を正確に使えるようになるためには、「ウチ・ソト」の関係の理解が必要である。

(p.276 参照)

「Vてもらいます」と逆の方向性の行為を述べる表現「Vてあげます」は、p.277 参照。

### 【関連項目】

- 活-01 て形
- 文-51 もらいます
- 文-77 Vてくれます

### 【「れんしゅう編」の練習】

- 19-6 山田さんへの手紙
- 19-7 ホームステイの報告